

運動会、校庭いっぱいの子供達の笑顔

小、中学校、幼児センターの運動会は、雨天中止、順延もなく、各校の校庭いっぱい元気な歓声、応援の声がこだましました。

中学校体育大会に続いて、6月1日に町内小学校のトップを切ったのは東川小（大久保善邦校長、353人）。現校舎最後の運動会にみんな大張り切

りで、キャンピングテントの波が校庭の周囲いっぱいにあふれました。同月7日は東川養護学校（長谷川和之校長、115人）、翌8日は、第一小（前田昭彦校長、21人）、第二小（河野祐史校長、43人）、第三小（紺野元樹校長、24人）とともに開きました。養護学校では東川高校ボランテニア

部の生徒18人が会場準備と生徒の誘導を手伝いました。第一、第二、第三各小学校では、子どもたちと地区の皆さんが一緒になってゲームや競技を楽しみました。第三小では今年も旭川大学の学生20人も参加してにぎやかさもひときわ増しました。

6月21日、幼児センター（伊藤和代園長、240人）は晴天のグ



低学年4色選手リレー（東川小1～3年生）



顔中真っ白で大奮闘！「美白でライス」（第一小）



ボールをかごで受け止め「親子でナイス・キャッチ」（第二小）



どっちが早い？大玉を山のてっぺんに運ぶ「これは玉RUN」（第三小）



1～3年生の障害物ゲーム「やまこえゴーゴー！」（東川養護学校）

パパとママが「たかい、たか〜い」と「わんぱくカエルちゃん」（幼児センター）

ラウンドで元気いっぱい笑顔が飛び跳ねました。

お楽しみ演芸会「真打ち競演」

6月7日、町とNHK旭川放送局は共催でラジオ番組公開録音「真打ち競演」を農協改善センターで開きました。出演はコント・チャリリーカンパニー、漫談・あさひのぼる、落語・三

遊亭歌之助、コミカルソング・テツアンドトモ、漫談・三遊亭小円歌、落語・柳家小さんの皆さん。町開拓120周年記念事業の一環として企画しました。本場のコント、漫談、落語を楽しみ

に、約500人の町民で満席。軽妙な掛け合いで会場からは終始笑いが溢れました。この日の録音は、7月19日（土）、8月2日（土）の2回に分けてNHKラジオ第1で全国放送、国際放送の予定です。



トリを務めた柳家小さん

旭岳の頂上目指してSEA TO SUMMIT大会



忠別湖（ダム湖）ー旭岳（標高2千291㍎）間をカヤック、自転車、バイク3種目で競い、旭岳頂上を目指す「大雪山SEA TO SUMMIT 2014」が6月22日、行われました。同大会実行委（事務局・ひがしかわ観光協会）が主催。4年目の今年は38組55人が出場しました。最高齢の奥村耕一さん（62）⇨大山市⇨は昨年に次いで2年連続出場。晴れ男の異名にたがわず、会場は朝から明るい陽射しを受けて気温14度の穏やかな日和になりました。



愛犬ミクと一緒に出場、奥さんの恵さんに声援送る中川さん（手前）

湧別町から初参加の中川映一さん（44）は、途中のどこどころで愛犬ミクちゃん（5歳）と一緒に自転車パートの奥さん、恵さん（42）を応援しました。2人と1匹で種目を分担したそうです。「姿見から頂上まで最後のコース2㍎を登るのが僕の担当。この子（ミクちゃん）はカヤック担当。でも中で丸く固まっていた。この大会はゆるめの大会でいいですね」と満喫していました。

エゾシカ被害から自然とのつながりを守るイベント

6月21日、坂東元旭山動物園長を迎えて、ヒトと自然との共生問題を考えるシンポジウムを農村環境改善センターで開きました。「大雪山SEA TO SUMMIT 2014」大会の一環行事です。

「共に生きる 未来に向けて」と題して基調講演。続いて獣医師・写真家の竹田津実さん、辰野勇モンベルグ

ループ代表の3人で、激増するエゾシカと人間との共生問題を話し合いました。坂東園長は、動物・鳥獣保護活動の一方、道内のエゾシカ被害を考えると、自ら狩猟免許を取ってエゾシカ問題と向き合っています。



導入を提言しました。

「人間はオオカミを駆逐し、酪農のために栄養価の高い牧草地を増やして

生きやすい環境に変えていった。牧草地では、鉄砲で駆除されないことを知

っている。牛や馬よりシカの数が多

増やしている皮肉な現状を報告。鉄砲による有害駆除、食肉需要と市場の開拓に続く第三の対策として「犬は犬種に係わらず、シカ肉にむしゃぶ

りついて食べる。太い骨を与える、30分で食い尽くす。オオカミの記憶を受け継いでいる」と、パトロール犬の